

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 14 号 (2 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

皆さま、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

令和元年が年度途中から始まったので、「令和が始まったと思ったら、早くも令和 2 年か〜、早いな〜」と感じてしまう。令和 2 年こそ、充実した年にしたいものです。

このタイミングでの部報作成は、①センター試験が終わり、出願の指導(面談)が終わり、ひと段落している¹、②今年度の校内合宿が 2/2 をもって終わり、その報告もできる、というのが公式見解ですが、③同じ日 **2/2 山形東高校体育部 OB 会総会・懇親会**があり、私は訳あって?1 次会(総会・懇親会)は欠席しサッカー部後援会のみで 2 次会から 4 次会まで参加しましたが²、HP について複数の方から触れて頂き、改めて「そろそろ、早く、新部報発行せねば」と思わせられたからです。IH と選手権ダブル出場した**レジェンド世代二冠会**の一人で、東京からわざわざいらっしゃって参加された**キンタツさん**(山東第 36 回卒)の感想、すなわち、部報にしばしば書かれるモットー「**山東サッカー部は巣立つ場であり、還ってくる場でもある**」を「今改めて感じている、幸せなことだ」という感想をお聞きし、部報作成への意欲が掻き立てられました。そして、**OBOG にとって、山東サッカー部が過去の思い出の中にあるだけでなく、現在も活動しており後輩を輩出し続けているということが、いかに励みになることか、いかにうれしいことか、改めて感じさせられました**。現役生は、OBOG のためにではなく自分たちのために頑張ればいいだけですが、後輩の活躍にふれて OBOG はうれしい、励みになるのです。顧問としては、部報だけでなく、部報に載る内容、すなわち現役生の活動をより一層充実したものにし結果も出す必要があるな〜と、改めて思いました。

さて、唐突ですが、新年号では必ず触れている**恒例の? 部報作成者顧問今野の残留確率の発表**と行きましょう。来年度(令和 2 年度)の今野の残留確率は **33%**です!! この確率の「計算式」については、HP にて平成 29 年度の部報最終号(16 号)をご覧ください。1 年ずつ 7%減少していきます。とうとう、残留確率が 3 分の 1 になりました。注 1 にも書いたように、今年 3 年生担任でキリが良いのも気になるところ。異動の希望があるわけではないですが、首を洗っとかなきゃいけないですね。現在コーチをしており、来年度保健体育で山形県の高校教諭の採用が決まっている**小池さん**(山東第 59 回卒)が山東に赴任すれば、すべてうまく行くのですがね〜。そんなうまく行かないでしょう。

さあ、久々の部報発行となりますので、11 月からの出来事を、以下の順に報告します。

- (1) 村山地区 1 年生大会 (2019 年 11 月 3 日)
- (2) 後援会主催山東サッカー部納会 (2019 年 12 月 17 日)
- (3) 校内合宿 (2020 年 1 月 10 日~12 日、1 月 31 日~2 月 2 日)
- (4) 新マネージャー就任報告

¹ 今年今野は 3 年生担任です。

² 試合終了の笛は、26:00 に鳴りました・・・。

1年生大会 10人→9人で善戦

今から思えば「はるか昔」、2019年11月3日に村山地区1年生大会が行われました。少子化によって選手数が少なくなっている関係により、山形県で1年生大会を実施できる地区は村山地区に限られる。残念なことです。選手権出場校数も少しずつ減ってきています。今後も、高校の統廃合でさらに減少していくことが予想されます。高校はまだ粘るでしょうが、中体連は、クラブの隆盛もあり、高校以上に負のスパイラルの途上にある。中体連サッカー専門部解体 → すべてのチームをクラブ化³の流れにあると私は見えています。

そんなことはさておき、部報作成を怠ったために、昨年11月の大会の報告をしなければなりません。しかも、模試監督により私は現場に行けず、**高橋コー子**（山東第46回卒）に監督をお願いしました。ということで、この試合観ていません！ 伝聞情報と**後藤さん**作成HPを総合して、簡単にまとめます。

11月3日選手権決勝の翌日、晴れ渡る日大山形Gにて地区1年生大会が行われる。例年感じるのですが、周囲以上にこの大会にかける1年生の意気込みがすごい。「同年代には負けたくない」という思いが強いのでしょうか。聞くところによると、小学生なども4年生大会など、学年輪切りの大会はかなり盛り上がるとのこと。**山東は、今年1年生8名しかいない⁴**。ということで、中学までのサッカー経験者を2名借りた。**アダチくん**（山形四中出身 山岳部）と**オオバくん**（山大附中出身 書道部）。忘れないうちに言うておきます、**お二人ありがとう！** 本当はもう一人集めて11人にしたかったのですが、今年の1年生、マネージャー獲得ばかりでなく選手獲得も出遅れている。ちなみに、この選手のアウトソーシングですが、この大会はフレンドリーマッチの延長なので、今年度協会登録していない人でも出場できる⁵。

試合の相手は強豪東海大山形 A。もうこっちは当たって砕けろ、ですよ。試合が始まると、すぐ押し込まれ、シュートを打たれる。**モンテ村山出身にして県トレセンに選ばれた1年生守護神「われらがコーセー」**が一度弾きますが、そこを押し込まれ、**開始3分で早くも失点**。「守って守ってPK戦」の目論見が早くも崩れる。東海が強いのは、スキルの問題だけでなく「シュートには詰める」という小学生でも習う当たり前のことを当たり前にやれること、山東が弱いのは、スキルや人数の問題だけでなく「シュート打たれたらゴール前に戻ってこぼれ球に対応する」という小学生でも習う当たり前のことを当たり前にやれないことに原因がある。その後も劣勢。前半10分足らずでPK献上。コーセーが一度止めるも、再び相手に詰められて**0-2**。1年生大会では、過去、7人で山南に先制⁶したタダの代（山

³ 中学生を2・3校/3・4校ごとにまとめてクラブ化し、中学のグラウンドを借り、中学の先生（または地域の方）の中でやる気のある方をコーチとして雇い、活動する。こういうあり方に移行していくべきだと考えています。①部活動のままでは「働き方改革」の美名の下やる気のある中学生の練習の場が限られてしまう、②部活動のままでは1チーム当たりの選手数が少なくチーム内競争原理が働かない、③人数不足のチームが多発する、④上記を理由にして中体連ではまともに活動できないため（現在すでにそうなっていますが）やる気のある中学生がみな少数のクラブに流れる。このような状態を中体連は変えていく必要があるとみていますし、このまま少子化が進めば、部分的には同じ流れが高校にも訪れると感じています。

⁴ 逆に、2年生選手は16名と多いです。

⁵ 来年からは、この大会のみの合同チームの出場を認めるようです。

⁶ その後、1-4で逆転負け。この代は部員も少なかったのですが、この時はインフルエンザは大流行で、山東サッカー部でも数名欠場し、ギリギリの選手で戦うしかありませんでした。システムは、3-2-

東第 61 回卒) や、10 人で山南に勝利しモンテにも後半残り 10 分まで 1-0 で勝っていた⁷ タイチの代 (66 回卒) という良き前例があるので、人数が少ないから何もできないわけではない。前半 0-2。

後半は、**守備の要? トヨバッチ**が脳震盪でピッチを離れる。**10 名から 9 名へ**。ますますの劣勢が予想されましたが、東海が緩んだのか、選手が少なくなり余計に山東の集中が高まったからか、ともかく何とかしのぐことができ、後半失点せず。結局 0-2 の敗戦となりました。トヨバッチの代わりに、「**自称山の神**」FW **メッシことダイキ**が初めて CB に降りると、メッシが予想外の良い働きを見せ、守備が安定したとは聞きました (その後もメッシは CB をし続けています!)。また、コーセーの独り舞台に、相手応援席からもため息が出ていたとのこと (コーセー、GK の活躍するチームに来てよかったね!)。

敗戦もロースコア? で済んだこと、後半は無失点に抑えた? ことは、伝え聞いたときうれい驚きがありました。それよりも、**負けはしたが団結して頑張った**ことが大きな思い出となったことでしょう。応援ありがとうございました。

賑やかに納会挙行 優秀選手賞も授与

12 月 17 日 (火) **第 38 回** 山東サッカー部納会が恒例の中島商店にて行われました。この企画、**マネージャーが作成した一年間の公式記録集**を片手に、OB 会がふるまってくださるすき焼き鍋を囲みながら、一年のまとめをするもので、今年で 38 回を迎えました。後援会からは清野名誉会長・岸会長はじめ多くの OB が集まって下さり、29 年度からすき焼きだけでなくご飯の量を増やして、選手の体作りもサポートして下さいました。

まず会長から今年一年の悔しさ嬉しさを総括するお話と 3 年生への受験の激励のあと、5 名の優秀選手賞を発表し表彰。その後、乾杯 (その 5 名と授賞理由は下の通り)。さまざまな作り方がすき焼きにはあろうかと思いますが、現役生は思い思いの「鍋」を作っておりました。途中 OB の方々から激励の一言を頂戴し、2 年生キャプテンの感謝の言葉があった後は、3 年生の決意の言葉。力強い宣言と心配になる宣言と両方ありましたが、**納会で蓄えたすき焼きパワーをぜひ勉強で発揮し、志望の実現に向けて頑張してほしい**と思いました。

岡澤オサイリス

山形 FC 出身で U15 の県トレに選ばれており、鳴り物入りで入部してきた。しかし、入部当初、スピード・パワー・テクニク・スタミナいずれも高校で活躍する水準でないばかりか、3 種までのプレーモデルから脱却できずメンタル的にも高校サッカーに適応できなかった。ただし、性格は前向きであり、向上心には目を見張るものがあったので、いずれ開花すると期待させるものがあった。1 年から 2 年にかけてスピード・パワー・スタミナを備えはじめ、「戦う選手」に成長したものの、ドリブルやシュートのスキルは課題が多く決定的な仕事のできる選手ではなかった。2 年から 3 年にかけてアウトサイドでプレーする中で目指すべきプレーモデルが明確になり、頭が整理されて練習を積むことができた。その成果が徐々に始り、3 年ではドリブルやシュートから試合を決める決定的な活躍をするようになった。でたらめな性格のようにみえてサッカーにはストイックであり追究心があり、練習の虫

1. 先制点を決めた主将のタダも、あとで聞くところでは、インフルエンザだったのだが、自分が欠場したら不戦敗になると思って味方にも知らせずに強行出場したとのこと。

⁷ その後、1-2 で逆転負け。

であった。グラウンドマネージャーとして練習を指揮したこと、選手権まで残り後輩にサッカーへの向き合い方の手本を示したことの功績も大きい。コーチと同じ大学でサッカーをする目標をぜひかなえて、活躍してもらいたい。

本間優太

近年の山東サッカー部にたまにあるが、名前からかけ離れたあだ名が定着した選手。顧問が無理やりつけたのでもなく、先輩のこじつけのような連想からついたあだ名が「タケちゃん」。しまいには「タケ」と呼ばれることもあり、何が何だかわからなかった。選手としては、まず入部当初よりフィジカル能力がかなり低く、左利きのドリブラーなのだが全く通用しなかった。オフザピッチでも、寝坊して遠征に遅れたりミーティング中よく眠るなど、「スリーピータケ」の名をほしいままにした。しかし、何とも憎めない誠実さがあるので人望が高く、先輩・同輩から副主将に抜擢された。プレー面では身長も伸び、徐々にフィジカル能力がついてきたことで、ドリブルが冴え、左サイドでナイスクロスを上げることもしばしばだった。最終的に公式戦のピッチに長く立って活躍したわけではないが、副主将としての仕事を果たすとともに最後までサッカー選手として向上を目指した。リーダーによくある押しの強さは欠いているが、Aチームのプレーにもピシッと注文を付け、締めるときはしっかり締めていたことが思い出深い。

伊倉優太

FPとして入部したが、GKのいないチーム事情を考え、1年のときGKを志願。ただ、彼の中でやはりFPへの未練があったのだろう。当初、プレーや練習態度にGKをする覚悟が感じられず、実際伸びもわずかしは見られなかった。しかし、先輩が引退する2年途中くらいからコーチによるシュートストップの練習でも粘りや意気込みが感じられるようになり、シュートへの反応が良くなっていった。元々は左足のキック力に特徴のあるDFだったが、そのキック力を生かしてフィードでも貢献するので、新チームでもGK経験者の1年生から徐々にポジションを奪い確保していった。3年ではそのレフティモンスターぶりに拍車がかかり、DFが自分でロングキックするよりバックパスしてでも彼に蹴らした方が良いと判断するほど、また、県総体にて左足でゴールを狙いやすいFKを獲得したら自ゴールから駆け上がり彼が蹴ることを約束事とするほど、彼の左足は頼りになった。結局FKを蹴ることはなかったが、もし蹴っていたら関係者を驚かしただろうと残念に思う。今後は、目標は険しいが、しっかり勉強し、サッカー部の魂を見せてもらいたい。

橋本愉誠

小柄だが対人に強く仲間の分まで頑張ってくれる、一口に言って頼りになる選手。オサとともに1年時の県総体からエントリーに名を連ね、3年引退し新チーム発足とともに1年からずっとレギュラーポジションで活躍した。とはいえ、彼の希望する中盤の選手としてではなく、球際の強さと左利きを考慮し左SBとしてプレーした。ボールへの獰猛さ、相手攻撃への準備の良さは上の学年を含めても抜けた存在であり、対戦チームの指導者から褒められることが多かった。しかし、最高学年になりボランチとしてゲームメイクを任されてからは、気負い過ぎる性格ゆえかプレーにゆとりがなく焦りが目立ち、コントロール・パスも堅くなりがちだった。持っている素質からすると、もっと落ち着けるはずの選手であり、柔らかいパスを出せるはずなので、高校サッカーで彼の可能性を十分に伸ばし切れなかったとの反省が指導者にはある。大学での伸びしろと考え、今後に期待したい。何より、県総体にて敗色濃厚の後半終了間際の左足同点弾の記憶は、鮮烈に残っている。

海藤汐恩

彼ほど目まぐるしくポジションが変わった選手も珍しい。顧問の記憶をたどっても、FW→右 SH→右 SB→CB→FW→ボランチとなかなか定まらなかった。GK と左アウトサイド以外は大体やった。パス・ドリブル・ヘディング・シュートとも、そこそこのレベルに達しているが、どれも抜けたものがない。ゆえにどのポジションもある程度はまるが、チーム事情でポジションが変わってしまう。本人も希望の一つのポジションに専念したかっただろうが、不平不満はグッとこらえ、指名されるポジションで頑張りチームプレーに徹してくれた。そういった自己犠牲心が先輩・同輩に評価されたのだろう、主将に選ばれた。力強いリーダーシップを発揮するタイプではないが、オンザピッチ・オフザピッチとも冷静沈着で、言葉より自分の行動で示す「背中で語る主将」だった。顧問がノリでつけたニコラスというあだ名が定着したことで思い出深い。チーム事情を理由にしてではあったが、最終的に、彼の希望のボランチで高校サッカー生活を締めくくれたのは、彼の誠実さが報われたようで本当に良かった。

恒例の校内合宿実施！

1月10日(金)～12日(日)、1月31日(金)～2月2日(日)、恒例の校内合宿を2度行いました。ここ数年は3回行ってきましたし、今年も3回企画しましたが、諸般の事情により、今年は2回実施。

その代わりという訳ではありませんが、**12月22日(日)東北大学カップ**に参加してきました。この大会、おそらく昨年からはまった。東北大学サッカー部の在籍者の出身チームに声がかかったんでしょうか、**仙台一高、二高、三高、安積黎明、そして山形東の5校が参加**。Aは東北大学の人工芝ピッチを使用させてもらい、東北大学から主審が出て試合を行う、至れり尽くせりの大会。昨年も誘われたのですが、費用等の関係により、お断りした。今年は、正月の埼玉遠征をしなかった分、こちらにお金を回すことができた。ただ、12月21日(土)も大会があったのですが、山東は(3年生のセンター用の講習だけでなく)1・2年生も冬期講習があったため、やむなく日曜日でのみ参加。なんとこの大会、土曜日山東の代わりに東北大学が出てくださり、優勝候補の仙台三高さんを破ってくれていたおかげで、日曜日仙台一高と二高に勝利した**山東の優勝**となる。望外の結果、しかも、これまでどんなに小さな大会でも優勝などなかったため、素直に嬉しかった。ただ、仙台のチームはリトリートしてくるため、山東DFにプレッシャーがかからず、容易にビルドアップでき、山東のペースで試合を進めることができたという「偶然」に支えられただけとも言えた⁸。ですから、2019年最終戦となった12月28日山形明正との練習試合での惨敗も、残念ではあったが予想外のものではなかった。要するに、まだまだ当たり前のスキルに支えられた丁寧な試合運びができない状態にある。

ということは、合宿で徹底するテーマも決まったようなもの。合宿では、**筑波大学サッカー部出身で風間監督(当時)のもと徹底して技術を仕込まれた小池コーチ**が、止める蹴るの基本からトレーニングを指揮。ここ数年、体育館練習では、「ピッチで無用に焦るのは、相手がアプローチに来ても少なくとも奪われることがないとの自信がないから」「だったら、

⁸ これは選手も自覚しておりました。

ボールを失わない／運ぶドリブルを含めてドリブルを鍛えるしかない」という発想の下、ドリブル主体の練習をしてきました。そして、その成果は一定程度あったとの自負はある。しかし、その弊害として、まずはドリブルにこだわるあまり判断が遅くなるしワンタッチ・ツータッチのプレーを選択肢に持てなくなっていた（そして、パスの受け手もワンタッチ・ツータッチで受けられるところに動くイメージをもてなくなっていた）。加えて、止める蹴るのベースが低いからパスがずれまくり、チームとしてつながりのないサッカーになってしまっていた。今年はドリブル練習を封印して、止める蹴るにこだわろうと。

今年の冬は暖冬で、降雪がほほないため、現在でもグラウンドでサッカーができる。小池コーチが高校2年生だった年も、暖冬で1月中旬まで降雪がなくグラウンドで練習ができた。しかし、1月中旬から2月にかけて、特に2月にたくさん降って、例年よりも雪解けが遅れた、なんてこともあったが、今年は今後もまとめて降らなそう。多くの県民が思っていることですが「雪がなくて助かったが、本当にこれで大丈夫だろうか」との思いはぬぐえない。とはいえ、サッカーをやる立場としてはうれしい限り。合宿でも、午後は体育館での「夜練」ではなく、グラウンドでの「夕練」を行うことができた。「だったら、合宿などしないで、通いで2部練とかすればいいんじゃないか」と思わないではありませんでしたが、食事トレーニングも含め、今年も合宿の効果をひしひしを実感しながら実施致しました。

また、サッカーだけでなく、1回目の合宿では、本校柔道部OG（山東第59回卒）にして筑波大学柔道部で学生2位まで上り詰めた**白壁さん**（山形市役所勤務 旧姓武井さん）による恒例の柔道式トレーニング、2回目の合宿では、本校サッカー部OBで現在サッカー部トレーナーの**芹川さん**（山東第41回卒）によるチューブトレーニングで、強いフィジカルづくり。そして、昨年度まで長らくGKコーチを務めてくださった**齋藤GKコーチ**がわざわざ宮城県北部から第2回の合宿に来て下さり、カザマ、コーサー二人にトレーニングをして下さった⁹！ **お三方、本当にありがとうございました。**

食事に関しては、**テーリック（山形給食センター）**さんからおいしい食事を作ってもらい届けてもらって、大満足。マネージャーはいつも通り朝晩のおにぎり作りで貢献。ただし、**2年マネージャーユーミ**しかいないので、1回目の合宿ではユーミの友人の**山東2年カノさん**（演劇部）に来てもらい、お手伝いして頂く。2回目の合宿では、**なんと1月から入部！！**した**1年生マネージャーミクリ**（山大附中出身、ゴルフ継続中）が来て、ユーミのサポートをしてくれた。**ミクリ、今後ともよろしくね。**もちろん、おにぎりのお米は、山東サッカー後援会事務局長にして山形社交界の若きプリンス**○藤先輩**（○和熱処理株式会社社長）差し入れの、「光の栖」。3年連続で合宿用に頂きました。もちろん保護者の皆様には、サッカー部の方針にご理解とご協力を頂きました。

皆様に支えられ、今年も充実の合宿を終えることができました。本当にありがとうございました。シーズンインまで、もう少しありますので、少しでもレベルアップしてシーズンインしたいと思います。

2020年シーズンも山形東をよろしくお願い致します。

⁹ 齋藤GKコーチからは、GKへの指導だけでなく、GK目線からのFPへの厳しいご指摘もありました。